

平成13年度 Eスクエア・プロジェクト

「学校企画実施計画書」

山梨大学教育人間科学部附属小学校

1 企画テーマ名称

手作りバーチャルミュージアムを活用した教科・総合学習の展開

2 実施計画

(1) 実施内容

- < 社会科 > 地域にのこる道具や建物について取材し、バーチャル郷土資料館づくりを行う。(4年生)
- < 図工科 > 仲間の作品を集めたバーチャル美術館づくりを行う。(5年生)
- < 総合学習 > 環境や福祉など今日的課題について追究学習したことをもとにバーチャル交流館づくりを行う。(6年生)

各バーチャル施設には、交流広場を用意して、交流校や交流地域からの出品、出展を受け付ける。環境が充実している本校が代理サーバーの役割を担い、交流相手は、インターネットを通して、各施設を利用した学習が展開できるようにする。

各バーチャル施設づくりにあたっては、教科、総合の時間において、学習成果や思いをレイアウトし、時間割に週1時間位置づけられた「パソコンタイム」の時間を使って、web表現していく。各施設を利用してのコミュニケーション活動においては、電子メールを使い、個人アカウントによって、休み時間をふくめて、教科、総合、パソコンタイムの時間に、主に個人または小グループ単位で行う。テレビ会議やネットミーティングを使って交流する場合は、学年全体または小グループで上述授業時間内での活動とする。

(2) 実施スケジュール

- ・ 6月 上記実践内容の具現化に関わる準備・打ち合わせ
- ・ 7月 環境整備 (web利用の素材選定, メーリングリスト, 他)
- ・ 7月~1月 各学年における実践と評価
 - 7月 図工科実践開始 (市内の小学校とWebづくり)
 - 9月 社会科実践開始・総合学習実践開始 (Webづくり)
 - 10月 バーチャルミュージアムを通してのコミュニケーション活動開始
 - 1月 公開研究会において実践提案とその評価

(3) 具体的学習計画

A. <社会科> バーチャル郷土資料館づくりについて

学習のねらい

自分たちのまちに残っている家具や道具などの移り変わりを調べ、絵年表(web ページ)にまとめる活動をとおして、まちの人々の生活は、およそ100年くらいの間に大きく変化してきたことを理解するとともに、その時代に生きた人々の想いにふれ、まちの今後の発展に関心をもつようにする。

学習をはじめるとあたって(夏休みを利用した道具集めについて)

本単元では、わたしたちのまちのうつり変わりについて学習する。身のまわりにある古い生活道具(含む家屋)を調べながら、当時の人々の生活は道具の変化とともに、どのように変わってきたか考える。

そこで、子どもたちには、長期休業を利用して、古くから残されている道具を中心に、自分たちの生活の変化に関する資料を探してきてもらうことにする。

調べる内容は、次の通りとする。その他にもつけたしたいことがあったら調べてかまわない。

- ・道具の名前
- ・どこで見つけたか
- ・いつごろ使われていたか
- ・どうやってつかうか
- ・今の道具とくらべてどうか
- ・その他

たとえば

しちりん,2そう式洗濯機 白黒テレビ,
足ふみミシン,大八車,ちょうちん
せんばこき,とうみ,かまど
まきストーブ,.....

子どもたちが集めた資料を、時代や種類ごとに仲間分けをしたり、実際にその道具などを使った体験活動をしたりしながら学習を進めていく。

できたら、みんなでパソコンを活用して、インターネット上に資料館をつくり、多くの小学生に訪れてもらい、意見交流をしたり、自分たちだけでは集められなかった道具や、ある地方特有の道具などについて、交流校にも資料をだしてもらったりして、学習を深めていけたらいいと考えている。

子どもたちには、本単元が始まってから、もう少しわしく調べたくなったとき、どのようにすれば取材できるか事前に考えさせる。自分の家や近くのおじいちゃんの家などにあるものなら、すぐに調べ直すことができる。しかし、遠くの親せきの家にあったものや、旅行先の資料館にあったものなどは、もう一度見に行くことはなかなかできない。そこで、あらためて見学することが難しいものは、できるだけ詳しく絵にかいたり、写真やビデオにおさめておくように勧める。学校でまとめていてわからなくなったら、どこへどのように問い合わせをすれば教えてくれるかも調べておくように伝える。

もし可能であるならば、子どもたちが、その道具の前で説明している様子を、家の人

にビデオにおさめてもらうこともよい。(ビデオは1～2分くらいがよい。)

取材活動の助けとして、別添のようなワークシートを用意する。

学習の流れ (総時数 13 時間)

オリエンテーション<1h>

1. 1枚の古写真から、今と昔のまちのちがいに興味をもつ。
2. 古い道具を調べてみよう
3. (長期休業中に調べた資料の確認をする。何を調べたか?)
「しちりん」を使うことによって、昔の人の苦勞や工夫について考える。話し合う。

<3h>

1. 「しちりん」でモチを焼く体験をする。(2h)
2. 「しちりん」を使ってみての感想を話し合う。(1h)
 - ・ 火をおこすのがとてもむずかしい。昔の人は毎日使っていて大変。
 - ・ 火の加減を小さな空気取り入れ口で調節するには、コツがあるようだ。
 - ・ 「しちりん」は持ち運びに便利で、炭をとっておけばまた、使える。

調べてきた道具を仲間分けして、その移り変わりについて知る。<7h>

1. どのように分けるか話し合う。(1h)
 - ・ おじいちゃんのところ
 - ・ おとうさんのところ
 - ・ いま
 - ・ 農工業機具
 - ・ 家庭用品
 - ・ その他
2. グループごとに、その移り変わりをwebページにまとめよう。(3h)
 - ・ もりこむ内容?
 - ・ 使いやすいところや使いにくいところは?
 - ◇ 人々の知恵や工夫
 - ◇ 人々の願い
 - ・ レイアウトと作成分担
3. 作成・・・・・・・・バーチャル郷土資料館をつくろう(3h)

バーチャル郷土資料館を訪れて、人々の生活の変化や人々の願いについて理解を深める。

<2h>

1. 担当資料の紹介と他の資料の読み取り
2. 人びとが地域の変化やくらしの発展を願ってきていることに気づく。=ふりかえりシート

webに公開し、他校の人と交流をしよう。

<パソコンタイムや休み時間を使ってチェック>

1. バーチャル郷土資料館を利用してもらおう。
2. 資料館に資料を提供してもらい、より中身の充実した資料館にしよう。

B . < 図工科 > バーチャル美術館づくりについて

学習の様子

バーチャル美術館づくりの実践はすでにスタートしている。子どもたち一人ひとりが自画像を描き、それをデジカメで撮影し、Webページとしてレイアウトし始めている。

今後は、校外の仲間と作品をWeb上で鑑賞しあい、子どもたちの創造力や表現力を高めていく。

すでに甲府市の図工サークルで提案が済み、交流を待つ段階にきている。

子どもがつくったWeb作品



自画像

がんばったことや工夫したこと

私のがんばったところは、顔の色です。むずかしいところもあったけど、私は、よくできたと、思います。自分の顔の工夫がうまくできてよかったと思います。

感想をメールでおくってください。
メールアドレスは e97ha08@agiri.agr.yamanashi.ac.jp

C . < 総合的学習 > バーチャル交流館づくりについて

学習の様子

環境や福祉など今日的課題についての追究学習がはじまった段階である。年度の後半には、追究学習の成果をWebページにまとめ、交流校とコミュニケーションする予定である。